

子供を元気にする。親も元気になる

2008年5月1日発行 毎月1回1日発行 第3巻第5号
平成18年12月6日第三種郵便物承認

プレジデント

定価 680円

大手塾に
気軽にお願
い事を
する方法

プレジデントファミリー 2008.5月号

英語が喋れると、年収が高くなるのか

お金持ちになる 新・学歴ガイド

登場! ビジネス新貴族
月給200万円以上
貰える
仕事図鑑

トップランナーが教える
年収1億円を
稼げる
子の育て方

金融ディーラーの道・藤巻健史、
研究者、エンジニアの道・中村修二、
名ドクターの道・福島孝徳、
法人弁護士の道・牛島 信、
プロ野球選手の道・谷 佳知 ほか



注意! それは営業トークかもしれない

信じていいの? 塾講師の言葉

「お子さんの成績は必ず伸びます」「宿題の量はどこもこんなものです」……

「うちは合格実績が違います」

そんなバカな……
と、よく見たら

あの「合格実績」に強い作を感じているのは一人や二人ではないだろう。正直、肩唾ものである。でも塾を選ぶ指標はアレしかない、という親も多い。

取材をすると、数年くらい前までは合格者数の水増しや改ざんはやりたい放題だったが、最近は業界全体で自粛傾向にあるという。一〇年前なら季節講習に行っただけの生徒でも合格実績に入れられるのは当たり前だったが、今は「在籍〇日以上」「受験のときまで在籍している場合」といったルールを設けているのである。

それに進学塾と個別指導塾を掛け持ちしているダブルスクールなら、合法的に双方の合格実績に加えられる。まあ、これは仕方ないとして、注意が必要なのは巧妙な表記方法である。たとえば、これだ。

「〇〇校ほか」

「ほか」が太字の場合もあるが、見落としそうなお小さい字であることも多い。

実際は、難関の〇〇校の合格者数より、「ほか」の合格者数のほうが大多数ということさえある。この表記はいわば予備校や塾のお家芸ともいえるが、親はスポーツ新聞のあざとさに敏感になるべきだろう。元

大手塾の講師で、
藤裕一氏はこう語る。

「私が以前に講師をしていた塾で、ある年、東大合格者が一名出ました。でも翌年は期待の子が落ちた。そこで、学年チラシをどうしたかといえば、堂々『東大合格』とある。そんなバカな……と、よく見たら小さい文字で『過去二年分』と」

このトリックを使えば、翌年も合格者が

「学生バイトは雇っていません」

社員が責任を持って
授業を行っています

そんなことを言つて、本当は人件費を抑制するため、バイトを雇っているのではないかと、前出・宮本氏によれば、講師の種類は正社員、時間講師(バイト)、派遣講師の三つだという。

「大手塾は社員とバイトが半々というところが多いですが、小学生を教えるところは少ないですね。ただ、サピックスはバイトや派遣講師が三〜四割いて、教壇にも立っています。まあ、あそこは隠してませんから。システムがしっかりしていることもあらし、若くて中学受験経験がある人を使う。バイトや派遣のメリットをよく知っているということでしょう」

もともと教えるのが好き、という人たちが志望してくるせいもあるだろう。バイト

出なければ「過去二年分」になるのだろう。各塾のチラシを収集して毎年分析している宮本氏もこう言う。

「これは高校受験の例ですが、某塾が本当は『都立西高合格者日本一』と出したいけれど、西高だけでは他塾に勝てない。『西・日比谷・一西・日比谷・八王子東・国立一

や派遣といえどもいい加減なフリーターではなく、プロ意識は強いという。

それに年齢が若いほど子供は親近感を持つものだし、社員以上に素晴らしい授業をしているバイト講師はかなりいる。これは今回取材した塾関係者の多くに共通する認識である。

だが、親の目を意識してバイト講師の存在を明言しなかったり、嘘をつくのはどうかと思う。前出・藤裕氏は言う。

「大学一年の頃、社会人という前提でバイト講師をしていました。だから授業中に言っていましたよ。『ああ、大学時代は楽しかったなあ』とか」

バイトとはれると塾の信用度が落ちてしまうというのである。こんな例もある。

「知り合いに、朝はマクドナルドでバイト、夜は講師という人がいた。でも、ある日マックで生徒とニアミス。『あれ? 先生何

でも勝てない。そこで、『西・富士・戸山合格者一位』と、不思議な組み合わせになる。嘘じゃないけど、ちょっと苦しい」

へんてこな工夫である。ここまでなくても、合格者の伸びを棒グラフにしたとき、遠近法のトリックで直近の年の棒(合格者数)を際立たせるような手法は目立つ。よくよく見ると、ずつと右肩上がりではなく数字が落ちた年もある。不動産広告と同じで、塾のチラシも小さい字や地味な部分にこそ目を向けるべきなのだ。

やつてのの……と講師の威厳が取り払われたそうです」(前出・中井氏)

生徒と思わぬところで遭遇する危険を未然に防ぐため、塾の人事担当者配慮するケースもある。藤裕氏の場合、

「自分の地元の校舎で授業を担当することはない。二、三駅離れた校舎に行つて授業していました」

とのこと。だが隠そうとすればするほど、親には不自然な対応に見えてしまう。

「アホ無しの授業見学がNGだったり、進学相談で講師ではなく教室長が出てくるのは、親に講師を見せられないから」

と、中井氏。親なら、見た目でバイトかどうかはすぐわかる。授業の質などには影響のない話ではあるが、塾が嘘をついているか否かは確認しておこう。塾の信頼性を測るという意味で、重要なポイントになるからだ。

「宿題の量はどのくらいなんものですよ」

成績が伸びない理由を
授業のせいにされないように

この教育では心もしないが、宿題が多すぎるのも問題である。その量の多さで有名なサピックスでは、一カ月で厚さ四〇センチもの宿題が出るという。そこまではなくとも、子供が自宅にいる間ずっと、机にかじりつかねばならない量の宿題を出すところはたくさんある。しかし、小学生をそんなノルマ漬けにして、いいことなどないのではないか？

調べると、大量の宿題の陰にも、塾側の事情があつたのである。

「宿題をたくさん出してあげば、塾は『成績が伸びない理由』を授業向けのせいにされずに済む。出さずに伸びないと講師のせいになる。だから、たくさん出す。やつてなければ生徒のせい。親自身も納得しやすい」(前出・斎藤氏)

宿題は、塾のエクスキューズなのである。なんだからいい。この事実を子供が知ったら、暴動を起こすのではないか。宿題の量

は、難しい單元になるほど応用問題のボリュームが増える。その量は、基本問題の実に三倍にも及ぶというから大変だ。そもそもこんなバカげた量をこなすことが合格への近道なのか？

「それだけの宿題をこなせる子は、頭がそういう発達段階にあるということで、当然合格できる。つまり、宿題を必死にこなした結果、合格できるようになったのではないのです。ちなみに、私が知る限り、本当にトップにいる子は塾の言いなりに全部はやつていないし、少数の問題をじっくり解いている場合が多い」(前出・水島氏)

塾の中には「親御さんも一緒に中学受験をするつもりで」という姿勢で、宿題の解答に詳細な解説を付けることもある。が、「塾によつては問題の解説がほとんど載っていない。まるで親に手を出させないようになっているところもあります」(前出・宮本氏)。

親は中途半端にかかわらず、「理解できなければ子供を塾に來させてください」とという強い込み作戦なのだろうか。

ただ、本当に怖いことはほかにある。宿題のフレッシヤーで子供がごまかしを常習化させてしまうことである。つまり、子供は宿題をせず答えを丸写しする。しかも全部正解だと思われるから、わざと適度に間違える偽装工作も施す。

「私、やつたよ」

「ホント!? 早いじゃないの」

母親は褒める。しかし、一向に成績は上がらない。正解していた部分も間違える。

講師はとくに見破っているが、それを伝えても母親は「ウチの子はちゃんとやつた」と主張する。なぜならその母親は「解答」をどこかに鍵をかけて隠しているから。例えば簡単に手に入るとは少しも考えない。

宿題が不正を助長させているとしたら悲劇だ。小学生からごまかしを覚えては未来などないのである。前で触れたように、宿題は塾のエクスキューズ。効果の有無は別にして、詰め込み授業と大量の宿題は不可欠、ということなのだろう。

子供が自力で七割できない教材は、その

子に合っていない、と水島氏は言う。だから、これは一概に塾側の指導だけが悪いと言いつける問題でもないようだ。元サピックスの講師は言う。

「私は以前、a(サピックスの最上位クラス)で教えていましたが、あのレベルの子たちにとつてはあの量の宿題は特に負担ではないようでした。ただ、昔は『エリート塾』として少数精鋭でやっていたサピックスも、今は生徒数が大幅に増加している。その結果今の三分の二くらいの子供にとつては消化できない量になっているんじゃないか」

わが子が宿題の量やレベルについていけない様子を感じ取ったなら、転塾やクラス替えを考えるべきかもしれない。重ねて言うが、成績が伸びるかどうかは子供の発達段階による影響が大きいのだ。その時点で頭の良しあしではない。

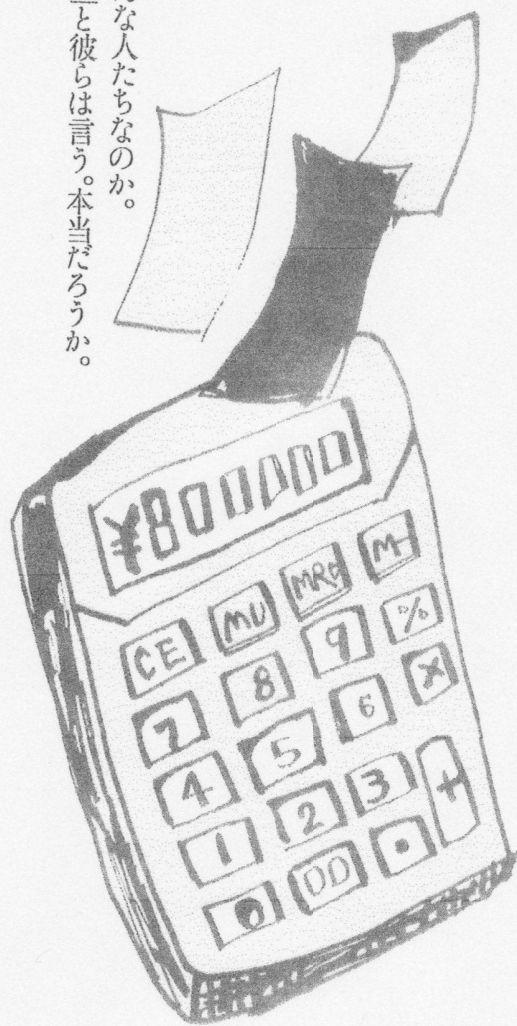
塾やクラスのレベルを下げるのには抵抗があるかもしれないが、これを放置しておけば、大量の宿題が、子供に不正と安易な受験テクを植えつける可能性がある、ということは肝に銘じておく必要があるだろう。

P



熱血センセイの 職場事情

「ここまでは塾の裏事情を覗いてきたが、そこで働く講師とはどんな人たちなのか。
「お子さんが志望校に合格してくれることが、何よりの報酬です」と彼らは言う。本当だろうか。
ここではそんな彼らの実態を追ってみた。



「生徒を合格させても、給料は上がりませんよ」

塾講師の献身的な働きを評価する親は多い。たとえば子が受験に失敗してもた。試験当日や合格発表に、当然のように駆けつけてくれる講師たち。励まし、リラックサさせる。教える子が受かると本人以上に喜び、落ちると一緒に泣く。

「生徒を合格させたいという講師の気持ちは、損得勘定抜きのもの。信じていい。逆にいえば、損得でやっている講師の生徒は合格率が高くない」(前出・中土井氏)

と、ここで疑問。家庭教師なら、子供が合格した場合、親は月謝以外の謝礼を手渡すこともあるだろう。塾講師は、塾から特別報酬は出ているのだろうか。

「基本的には生徒を合格させても、給料は上がりませんよ」(前出・宮本氏)

「子供を難関校に何人合格させても、給料には影響しませんし、特別報酬はない。中学受験は算数、国語、理科、社会の四教科で、それぞれの担当講師がいます。誰ががんばったから合格したという評価はしづらい」(中土井氏)

講師、教室長のチームで勝ち取った合格だから、MVP講師はいないのである。ところで、講師の年収はどの程度なのか？元大手塾講師のケースを聞こう。

「私がかつて一〇年近く勤めていた塾だと、三〇代半ばの教室責任者で額面七〇〇万円くらいでした。転職しようと面接に行くと、サピ(サピックス)は他塾での経験を勘案した上で、四五〇万円。enaは五〇〇万。早稲アカは最初の提示が六〇〇万円でした

が、「ちょっとそれでは」と言ったらすぐ七〇〇万円にしてくれた。結局は独立しましたが、今は一人で塾をやって、七〇〇万ちよつとというところでしょうか」

大学予備校は講師で売る。それで有名な講師は億単位で引き抜かれたりするダイナミックな世界だが、中学受験はステイタスな世界。講師では売らないのである。そのわりに「サピでは、できない講師は二五〇万〜三〇〇万円程度で、スゴイ講師は九〇〇万円。格差もけっこうある厳しい世界」(中土井氏)なのだが。

生徒獲得の成功率が 講師の年収に影響する

では、講師の給与はどんなときに上がる

のか。勤務年数などで判断する塾は多いが、もう少しわかりやすいしくみのところもある。前出の宮本氏はこう話す。

「たとえば早稲アカでは、季節講習で、担当したクラスの生徒をどれだけレギュラーの授業に呼び込めるか、その成功率が講師の昇格に響く。つまり年収に影響が出るんです。季節講習だけでなく、NNオープン模試を受けた子を、どれだけNN特訓(有料)に参加させられるかも同様です」

塾たつて営利企業である。「利益を増やす」生徒数を増やす」という理屈で考えれば、このしくみは納得がいく。ただ、生徒を獲得して給料を上げることのみに邁進する講師では、信頼して子供を預けることはできない。宮本氏は続ける。